



行健中学校だより

郡山市立行健中学校

天行は健なり

No.8 2010/6/11 (金)

校長室の窓から～自分にできることから～ 校長 齋藤正徳

校長室の前に本立てを置き、生徒の皆さんや先生方にぜひ読んでほしいと思う本を並べました。本校の朝の読書の時間の三栗タイムにちなみ、「三栗文庫」と名づけたと思います。ここ数日、立ち止まって本を手にする生徒の姿も見かけるようになりました。

今日は、その中から、薄い本ですが一冊、『ハチドリのひとつく』という本を紹介したいと思います。これは、南米アンデス地方の先住民に伝わる民話です。

「森が燃えていました。森の生きものたちはわれ先にと逃げていきました。でもクリキンディという名のハチドリだけはゆったりきたりくちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは火の上に落としていきます。動物たちがそれを見て『そんなことをしていったいどうなるんだ』といって笑い

ます。クリンディはこう答えました。『私は、私にできることをしているだけ』『ハチドリのひとつく』辻信一監修 光文社)

私たちは、クリンディのように、自分ができるところを本当にしているでしょうか。クリンディは、たった一人であっても、どんなに微力であっても、今、自分ができるところに尽力することの大切さを、私たちに教えてくれています。



校長室前の三栗文庫の本を手にする生徒

第2回全校集会開催

月曜日に、第2回目の全校集会を開催しました。

先週の市中体連総合体育には、多くの生徒が選手や応援者として参加しました。試合を通して、勝っても負けても、生徒は多くのことを学びました。

今回の全校集会ではこうした貴重な経験を、ぜひ全校生に知ってもらいたいと、ソフトボール部長の川音美咲さんに全校発表をしてもらいました。川音さんは、真剣に部活に取り組むがゆえの悩みや不安、それらを乗り越えてチームが一つになった喜び等について話してくれました。裏面に全文を掲載してあります。素晴らしい発表でしたので、ぜひ一読下さい。

ソフト部顧問の宮本生久男先生からは、部活を通して「人として大切なことを学んでほしい」との、これまでの豊富な経験と実績に裏打ちされた大変説得力のある講話がありました。



今回、川音さんと宮本先生のお話から学んだことは、今後の部活や学校生活、さらにこれから生きていく中での様々な場面で、私たちの支えになることと思います。

3年思春期講座

昨日、3年生を対象に、郡山保健所の職員の方を講師に迎え「思春期講座」を開催しました。

性に関して正しく学ぶ機会はなかなかありません。3年生は性に関する悩みが生じる年頃でもあります。今回は、保健所の現場からの実例や専門的な見地から、性について正しい知識を身につけ、相手の性を尊重し、一人の人間としてよりよく生きることを意味を学ぶ良い機会となりました。

家庭教育学級開講式

本年度も家庭教育学級を開講しました。

家庭教育学級では、子どもを取り巻く諸問題の改善に取り組むための知識や経験を積んでいくことや保護者の皆様の交流の機会を提供することを目的としています。自分達でテーマを決め、楽しみながら学んでいく学級です。途中からも入級できますので、ぜひご参加ください。

栄光の記録

【ノジリ伸英杯野球大会】

○ 3位 野球部

【第4回GIANTS杯福島県野球大会】

○ 3位 野球部

【第15回郡山野球連盟会長旗中学校野球大会】

○ 3位 野球部

【第30回郡山市中学校ハンドボール大会女子の部】

○ 3位 女子ハンドボール部

【第47回尚志杯選抜中学校女子ソフトボール大会】

○ 3位 ソフトボール部

全校集会で、市中体連総合大会等各種大会の表彰を行いました。受賞者は皆、呼名に対してしっかりと返事をし、壇上でも立派な受賞態度で、全校生の模範となりました。

※ 市総合大会の表彰は先週号で紹介いたしました。



【来週の行事予定】

14日(月) 月12345:B案

15日(火) 火123456:B案

○ 食に関する指導1年12:00~12:30

16日(水) 学年時間割B

○ 県中中体連総合体育大会1日目

《6月16日の日程》

12:25 下校(制服での下校)

※ 部活動がある場合、弁当持参。

16:30 部活生徒完全下校時間

※ 部活がない生徒は下校後、午後3時までは自宅学習となります。

17日(木) 木12345:B案

○ 県中中体連総合体育大会2日目

18日(金) 金1234水⑤

○ PTA広報委員会 17:30

最終下校時刻 19:00

※文化部・3年生引退の部は18:30

第2回全校集会～生徒発表・講話紹介～

『市中体連総合体育大会から学んだこと』

ソフトボール部長 川音さん



中体連第3位、それはチーム一丸となって皆で勝ち取った勝利である。思い返せば去年、県大会で敗れて、レベルの差を感じた。もっと上のレベルで勝ち抜いていけるチームになるために、一人一人がもっとうまくなりたいと思い、練習に励み、勝ち進んでいくためには、チームが一つになるためにはと、たくさん悩んだ。

中体連に向かって無我夢中で練習に打ち込んだ。たくさん強いチームと戦って、実践的な経験を積み、着実に力をつけていった。しかし、一人一人の力は確実に伸びたはずなのに、自分達の満足する試合もできず、結果も残せなかった。

一人一人の見ているところがバラバラで、チームとして一つになることができていなかった。練習試合、大会に挑めば挑むほど、自分を見失っていった。アウト一つとるのも、点数をとるのも、とても苦しんだ。チームメイトに対して、なんでできないんだろう、なんでわからないんだろうと思うことが多くなっていった。いつしか、ソフトボールが苦しいものになっていった。試合になると、怒られないように、失敗しないようにという思いだけで、誰一人ソフトボールを楽しんでいなかった。自分が目指すチームを見失ったために、チームで試合をするのに、個人個人で試合をするようになっていた。その時は、ソフトボールができることが当たり前になっていて、自分達が使っている道具や自分達に携わってくれている方々への感謝の気持ちをなくしていた。チームメイトがとってくれる一つのアウト、一つのヒットが当たり前になっていた。

中体連の初戦敗退が頭をよぎった。三年間続けてきたソフトボールをこんな形で終わらせたくない。先生とチームメイトとたくさん話し合った。私達はソフトボールが好きで集まった14人。勝たなきゃいけないとか、やらされているソフトボールではなくて、一つのプレーに感謝して喜びを分かち合えるチーム。行健中のソフトボール部は、行健中らしいソフトボールをしてこうようとみんなで確認し、その気持ちを胸に刻んで迎えた中体連。

目標は初戦突破。負けたら引退というプレッシャーもあり、とても緊張した。1回戦目の五中では、三年間の思いを一つにし、私たちにぶつかってきた。この思いを感じながらも、私達は三年間やってきたことと、自分達が思い描いていたソフトボールをすることができた。この試合を通して、チームが一つになる強さと、ソフトボールの楽しさを改めて確認することができた。

16、17日の県中大会に向けて、一步一步確実に進んでいけるように、原点にもどり、私達に携わってくれる方々、ここまで一緒にソフトボールをやってきた仲間感謝し、これまでの3年間の思いを胸に戦ってきます。

第1回定期テストまで10日

第1回定期テストまであと10日です。計画的にテスト勉強を進め、これまで学習した内容の復習と定着を図ってください。



『行健中生に望むこと～部活を通して～』

ソフトボール部顧問・3年1組担任 宮本 生久男



行健中でのソフトボールの顧問としてこれまで思い描いてきたこと、実践してきたことをお話したいと思います。

11年前、行健中学校に赴任して、ソフトボール部の顧問となった時、郡山市内で練習試合を申し込んでも、どこも受けてくれませんでした。とても悲しい思いをしたことを覚えています。では、なぜ、どこも行健中の相手をしてくれないのか。その答えは、グラウンドの上にあります。行健中のグラウンドを見ると、バットがあちらこちらに無造作に置かれていました。ボールもころがったままでした。ベースもありませんでした。選手も声を出さず、勝手なおしゃべりをしたり、相手をやじったりする有様でした。

こうした部の現状を変えるために、どうしたらよいか？ やれやれといっても部員は動きません。まず、私自身が学ばなければ生徒は変わらない。自分にソフトボールに対する愛情がなければ、生徒が変わるわけがない。では具体的に、どこから始めるか？ 私は選手に、こう呼びかけました。

「練習試合をするたびに、そのグラウンドのゴミ拾いをしよう。」

そうすれば、何をすべきかが見えてくるのではと考えたのです。それから公式戦、練習試合全てのグラウンドのゴミ拾いを続けました。

現在、大学1年生になるチームが、新チームで迎えた試合。熱海中に負け、全てのチームが去り、残ったのは行健中ソフト部だけでした。バスも一台もなく、日も暮れたグラウンド。行健中の生徒は、泣きながらグラウンドのゴミを拾っていました。グラウンドの側溝のゴミまで全て…。この姿を見て、生徒達は本当に変わったと思いました。1、2年生がこうした先輩の姿を間近で見て、何かを感じたことは間違いありません。次の年、県大会出場を果たしたことから。

行動はおそろしいです。「はい」と返事をする。顧問にだけ。しかし、顧問が全て正しいとは限りません。自分で考えることを覚える。自分で思い描いたことが正しいかやってみる。「はい」と返事をした限りは、まず相手を尊重して受け入れ、それから自分の意見を返す。相手を受け入れる力は「はい」という返事。「はい」という返事ができない生徒は我がままでしかない。人からも好かれません。

中体連に参加する中で、この2、3年、周りの学校が行健中を応援してくれるようになりました。みんな応援してくれる。練習試合も受けてもらえなかったかつての行健中が…。ようやく愛される行健中ソフト部が変わってきたと実感しています。

今回の大会初日、五中との試合で一度だけタイムをとりました。流れは決していたのですが、どうしても気に入らないことがあったからです。そこで選手にこう言いました。

「あなたたちが今、この場に立っていること、この場でこんなにすごいゲームができたこと、全て郡山五中の生徒のおかげではないか。勝ち負けは別にして、五中を受け入れる、尊重する、それができなければ、行健中のユニホームを着るな。相手を尊重できるようになれ。」

選手激励会で、野球部部長が話してくれた「大会を通して人として大切なことを学んでくる」ということ。これができなければ、学ぶことができなければ、部活をやる意味はない、私はそう思います。